

成功へのキセキ

南の国の「ナデシコ」税理士

第40回 ミナミの国ならぬ神の国へ行ってきました!

神話をめぐる旅、第2弾。

先月、伊勢神宮から熊野古道そして花の窟神社まで、事務所まで旅行してきたばかりですが、今度は出雲大社にお詣りの巻です。

伊勢神宮は、言わずと知れた天照大神(アマテラスオオミカミ)が祀られている神社です。太陽神である天照さまとは、対の関係にあるのが、出雲大社なのだとか。伊勢神宮が陽なら、出雲大社は陰。今年は「道開きの年」だから、両方行った方がいいらしいよなんて聞いちゃうと、神社好きの私の虫が行きたい!行きたい!と騒ぎはじめてしまいました。

しかも今(執筆当時)は、神無月。年に一度、日本中の神社から、神様がいなくなっちゃうから、神無月。で、神様がどこに集まるかという、なんと出雲大社に大集合するのです。

だから出雲では、この時期のことを、神無月ではなく、神在月と呼びます。

これは、行くっきゃないじゃん!!

というわけで、いくつになってもお子ちゃまの虫は、もはや我慢ができず、気がついたら出雲行き飛行機に乗っていた…というわけです。

出雲大社は、大国主命(オオクニヌシノミコト)を祀っている、縁結びの神様として有名な神社です。でも神話好きの私としては、じつは本命は素盞鳴尊(ササノオノミコト)。日本書記によると、ササノオノミコトは、オオクニヌシノミコトの大先祖、6代前の大おじいちゃんにあたります(ササノオの子どもがオオクニヌシノミコトという説もあり)。私にとっては、出雲大社といえば、オオクニヌシノミコトより、ササノオノミコトというイメージなのです。

「出雲大社」真ん中は神様が通る道です。



え?!
ササノオノミコトって誰?という人のために、日本の国生みの神話について、簡単に人物紹介(笑)しておきますね。

日本人なら誰もが知ってる天照大神。ササノオノミコトは、日本を作ったと言われるイザナミとイザナギの間に生まれた子

ども、そしてあの天照大神の弟君なのです。

神話には諸説ありますが、イザナギとイザナミは愛しあい、九州や四国、本州、隠岐、淡路島など8つの島を生んだと言われています(ここに、北海道は含まれていないのが、気になるんですが…)。

ちなみに、イザナミが最初に生んだ子どもは、不具だったため、海に流してしまいます。理由は、女性のイザナミが、「国を生みましょう!」と、男性のイザナギより先に言葉を発してしまったから。イザナミが気をつけて、イザナギより先に喋らないようにしてからは、順調に国生みできたのだとか。

ふーん、納得いかないエピソードですが…。

そして国生みが完成すると、今度は風の神・土の神・水の神など神生みに取りかかります。けれど最後に生んだ火の神の炎で大やけどを負い、なんとイザナミは生命を落としてしまいます。先月、訪問した花の窟神社は、そのときイザナミノミコトが葬られたと言われる日本最古の神社なのです!

あれ?

イザナミは亡くなったのに、ササノオノミコトは、いつ生まれたの?

不思議ですよー。そこは神話の世界。あまり深く追求しては、いけません(汗)

イザナミの死を嘆き悲しんだイザナギは、黄泉の国まで、イザナミを追いかけっていきますが、時すでに遅し。イザナミを取り戻すことはできず、諦めて地上界に戻ってきます。そして、黄泉の国の穢れを清めるために、清らかな水で、身体を洗うのですが…。

左の目を洗ったときに生まれたのが、天照大神。右の目を洗ったときに生まれたのが、月読命(ツクヨミノミコト)。鼻を洗ったときに生まれたのが、ササノオノミコト…らしいです。

キリストは処女だったマリアから生まれますが、日本の最初の神様は、男性から生まれてたなんて、なんだか不思議ですなー。

父であるイザナギは、天照大神には高天原を、月読命には夜の国を、ササノオノミコトは海原を治めるよう、命じます。

けれど、マザコンのササノオは、母のイザナミに会いたいと泣くばかりで、ちゃんと働きません。仕事をしないばかりか、乱暴の限りをつくし、お姉さんの天照を困らせてばかりいるので、ついに天照が怒って、天の岩戸に隠れてしまいます。天照大神は太陽の神様なので、世界が真っ暗闇になるのは、有名な話ですよー。

◆筆者 原 尚美(はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現:全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」で全国1位の成績を収め、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性のスタッフ約30名の規模にまで成長。一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に『小さな会社のための総務・経理の仕事がわかる本』『小さな起業のファイナンス』(いずれもソーテック社)、『51の質問に答えるだけでできる「事業計画書」のつくり方(日本実業出版社)』『トコトわかる株式会社のつくり方(新星出版社)』『世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)』『一生食っていくための土業の営業術(中経出版)』など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

そのため、あまりにも乱暴がすぎると、厄介者のササノオは、高天原を追放されてしまいます。そして地上におりたつたその場所が、出雲の国というわけなのです!

その出雲の地で、ダメんずだったササノオの人生を変える大きな出来事があります。水辺でシクシク泣いている美しい女性、櫛名田比売(クシナダヒメ)との出会いです。理由を聞くと、8つの頭をもつ恐ろしい大蛇(ヤマタノオロチ)が、もうすぐ彼女を食べに来る、というではありませんか!

ササノオはその美しい姫を守ると誓います。そして、ヤマタノオロチにお酒を飲ませ、酔っ払ったところを見計らって斬りかかり、見事、退治に成功するのです。その時、ヤマタノオロチの尾っぽから見事な太刀が出てきます。ササノオはこの、天叢雲劍(アメノムラクモノツルギ)を、お姉さんのアマテラスにプレゼントもしています。

それからササノオは、クシナダヒメと結婚し、生涯、奥さまを大事にしたと言われてます。

どうです?

日本の神話も、なかなか面白いでしょ?

ササノオは、甘えんぼうだけど、お母さんやお姉さん想いの優しい心を持って、愛する人を守るためなら、どんなに強い奴とも断固戦うし、理想的な男子じゃありませんか?



「稲佐の浜」八百万の神様は、ここから出雲に上陸するそうです。

というわけで、ササノオノミコトに会いに、出雲に行ってきました。

まずは、全国から八百万の神様がお着きになるという稲佐の浜へ。砂浜の真ん中に、大きな岩が一つあり、岩の上には神

殿があります。紅葉をバックに、なんとも神秘的な光景。

それからいよいよ、出雲大社へ。ご祈祷をお願いすると、本殿の中に入れるそうなので、さっそく申し込みます。その後、神在月の時しかお詣りできない龍蛇神にも、参拝。また十九社といって、日本中の神様が宿泊される社が2箇所ありますが、この時期だけは戸が開いているので、ここにもお詣りすることができました。

出雲大社の次に、ササノオノミコトが祀られている須佐神社にも足を伸ばして、参拝します。何と言っても、ヤマタノオロチをやつたほどの神様なので、半端ない(笑)パワーをゲットです。

時間がなかったので、ササノオとクシナダヒメが暮らした須賀神社には寄れませんでした。大満足の出雲大社と神話の旅でした。

ちなみに、天照大神のさらに子孫に、瓊瓊杵尊(ニニギノミコト)という神様がいて、その奥さまは、木花佐久夜毘売(コノハナサクヤヒメ)というすごい美女だったらしいです。

じつはあるスピリチュアルなパワーを持つ人から、コノハナサクヤヒメが、私の守護神だといわれた(←美女とはあまりに関係ないですが汗)のが、神話に興味をもつきっかけでした。

すごい美女のコノハナサクヤヒメには、すごい不細工な石長姫(イワナガヒメ)というお姉さんがいます。妹ばかりがもてるので、イワナガヒメは嫉妬して、コノハナサクヤヒメに呪いをかけたとも言われています。

などなど、少しかじった程度ですが、神話の世界は、人間の欲や執着、愛情など根源的な情念が、自然に対する畏敬の念などとミックスして、なかなか面白いです。

しかも、このイザナギとイザナミに始まる神話の家系図は、神武天皇へと続き、今の天皇にも繋がっている(?)みたいなので、なんだか不思議ですね。

天皇制について難しいことをいう人もいますが、こんな素敵な家系図をもつ日本人に生まれて良かったなーと、単純に思います。

好評発売中

一生食っていくための「土業」の営業術

原 尚美 著(中経出版)

1,500円+税

カネなし。客なし。コネなし。
開業と同時に出産したため、普通の新人ならたっぷりあるはずの、時間もなし。
文字通りゼロからスタートした会計事務所を、女性だけのスタッフ22名の規模にまで成長させたノウハウについて書いた本です。
特別なスキルもコネも持たない、すべての平凡な個人事業者に、ビジネス拡大のヒントが満載です。

